

令和4年度 人権擁護のためのセルフチェックリスト ～子どもを尊重する保育のために～（自己評価）

社会福祉法人専勝会
あゆみ保育園

保育を考える上で大切な「子どもの人権」について先生方にアンケートをとり、実際の保育の中で自己評価を生かしていけるようにしました。アンケート結果を公表します。

人権と言っても、さまざまな考え方があるのですが「児童の権利宣言」や「子どもの権利条約」という社会的人権も重要です。しかし保育の中の子どもの人権とは、オムツ替えをする時どうしている？けんかの時の言葉かけは？給食の遅い子に対してはどうしている？昼寝の時は？等具体的なことです。実際の保育の中で、保育士が日々直面する生活の中の子どもの人権について考えてみました。拒否的なことばを使わず、子どもの自主性を重んじ、人として大切にされることが子ども達の人権を尊重する基本だと思います。しかし、何が正解という明確な答えがないのも事実です。しかし、この自己チェックが自分自身の行動や言葉かけを見直すいいきっかけになることは間違いありません。子どもの人権を尊重していく為には「こうだからこれはしていい。これはしちゃだめ」と考えるのではなく、常に考え続けることがとても大事です。

☆社会福祉法人専勝会は、子どもの人権に配慮した丁寧な保育を心がけていきます。

人権擁護のためのセルフチェックリスト集計

	子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり	物事を強要するようなかかわり 脅迫的な言葉がけ	罰を与える乱暴なかかわり	一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	差別的なかかわり	平均
	「していない」の割合	「していない」の割合	「していない」の割合	「していない」の割合	「していない」の割合	
平均	81.1%	61.1%	82.2%	83.3%	78.9%	77.3%

「している」が3人以上いた項目(全18名)

子ども一人ひとりの人格を尊重しないかかわり	しているの人数
・排泄の失敗への対応をその場で行ったり、周囲に知らせたり、その失敗を責める言葉がけをする	4
・子どもが保育者に話しかけた際、「いま忙しいから後にして」と言う	8
・苦手なことを渋っている子に「早くやって。できないなら後ろに行って。」と言ったり、他者と比較したりなど、否定的な言葉がけをする	8
・食事の際、こぼす等の理由でテーブルに給食のメニューをすべて配膳せず、食べた次のおかずをあげる。または、こぼすたびに叱りながら食べさせる	3
・子ども同士のトラブルが起きた時、子ども達の言い分を聞かず、一方的に判断を下す	3
・自分から訴えてトイレに行くことができるようになった子どもに対して、「おしっこ出ない」と訴えていても、トイレに行くように促す	5
物事を強要するようなかかわり・脅迫的な言葉がけ	
・集団行動をするための言葉がけをした際、言葉がけを聞かない子どもに「〇〇しないなら〇〇できないからね」と言葉をかける	12
・寝ずに話をしている子どもに対して、外で寝るように言ったり、布団を友だちの布団と離して敷いたりする	9
・どなったり「〇〇しなさい」との言葉や子どもが怖がるもの(鬼等)を使ったりして、子どもを保育者の思い通りに動かそうとする	10
罰を与える・乱暴なかかわり	
・子どもの人数チェックをする際、子どもの頭を手ではたくようにして人数を数える	3
・並ぶときなどに、子どもの自発的行動を待てず、腕を掴んで引っ張る	6
・子どもを注意する際に、「だめよ!」と言って子どもの手を叩く	3
一人ひとりの子どもの育ちや家庭環境を考慮しないかかわり	
・いつも時間ぎりぎりのお迎えになる子どもに対して、「〇〇ちゃんのお母さん、今日も遅いね」と言う	3
・登園が遅い、服が汚れている、お風呂に入っていない、提出物の遅れ等の際に、子どもに「また〇〇君のお母さん忘れたの。いつも忘れて困るね」や「昨日お風呂に入れてもらわなかったの」など否定的な言葉がけをする	3
・「お休みの日にどこに行ったかお話して」との問いかけについて、クラスの子どもたち『全員』に発表してもらう	7
差別的なかかわり	
・いつまでも泣いている男の子に、「男の子だからいつまでも泣かない」や、乱暴な言葉遣いをする女の子に「女の子だからそんな言葉を使ったらいけない」と注意する	9
・少食の子に対して、子どもの意見を聞かず、初めから非常に量を少なくして配膳する	7

気づいたこと・感じたこと

- ・何気なく言った言葉や接し方で傷ついた子がいたんだろうと思う
- ・給食の量を減らす等、結局自分の都合でしていることだったのかなとも感じた
- ・休日に何をしたのか聞いてはいけないということに驚いた。気を付けなければと思った
- ・行事の時にもっと良くしたい、もっとできるとの思いから良くない関わりをしてしまう傾向がある
- ・何でも子どもの思い通りにすることが尊重ではない。子どもにとって必要なことを考えて関わりたい。職員間も同じことが言えると思う

良い点

- ・一人ひとりの性格に合った対応を心掛けている
- ・子どもの気持ちを考えて言葉かけをしようと気を付けている
- ・脅迫的な言葉かけや罰を与えたりしたことはない
- ・自分の価値観を押し付けるようなことをしていないという結果が出て良かった
- ・差別的な関わりは全くない
- ・1日1回はスキンシップをとるように心がけている
- ・悪いことをした時は子どもと目を合わせ顔を見て話すよう心掛けている。その後いっぱいグューするようにしている

改善すべき点

- ・1・2回はまだ優しい言葉がけもできるが、何回も同じことを繰り返すと「○○しないから○○できない」「だめでしょ！やめなさい」と言ってしまう
- ・午睡中ずっとしゃべって眠らなかつたりすると布団を離しがち
- ・「鬼さん来るよ」と脅迫的な言葉を言うことがある。安心する言葉遣いを心掛ける。焦らず落ち着く
- ・優しい言葉がけをする為、スキルアップする必要がある
- ・以前は朝泣いている子がいると「ごはん食べてきた？」「お風呂入った？」と尋ねていた
- ・忘れ物が多かったり提出が遅れたりすると声に出してしまう
- ・何気なく「ママ遅いねー」「お仕事いっぱいがんばってるんだねー」と言うことがあった